

事前に提出された意見について

市町村名	意見交換内容	意見交換を希望する理由	県の取組	担当課
盛岡市	いわて飲食店安心認証制度の基準の見直しについて	<p>市内飲食店においては、いわての食応援プロジェクトなどの消費喚起策、感染症数の下げ止まり、ワクチン接種率の向上などにより外出の機会が増加し、客足が回復しつつあるものの、「いわて飲食店安心認証制度基準」に基づく、座席数の制限により、コロナ禍前の売上水準の確保が難しい状況にある。</p> <p>飲食事業者からは、同基準を一律に適用（例えば、換気状況に関わらず対面でも、背中合わせでも座席の間隔は1mとするなど）するのではなく、柔軟な運用や、基準の見直しを求める声が一定程度寄せられている。</p> <p>ついては、県においても、飲食店の声を聞く機会を設け、感染症の拡大期・減少期の状況に応じた柔軟な運用を行うなど、基準の運用や見直し等について、特段の配慮をいただくとともに、現時点における見解についてお伺いしたい。</p>	<p>飲食店における感染防止対策を徹底するための第三者認証制度である「いわて飲食店安心認証制度」については、飲食店の皆様から様々なご意見をいただく中、柔軟な運用を図ることが重要であり、今年9月には、利用者の負担を軽減するため、来店者名簿の作成を不要としたところ です。</p> <p>一方、当該制度の運営費には新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当しており、内閣官房等が科学的知見に基づいて示している認証基準においては、いわゆる「マスク会食」の推奨等について幅広に記載されている中、「1m以上の座席間隔の確保」又は「パーティション等の設置」のいずれかについては、いわば最低ラインの条件とされており、これを本県が個々の具体的な場面に応じて独自に緩和するに足る科学的根拠までは見出せていない状況です。</p> <p>そのような中、内閣官房等においても、感染拡大防止と社会経済活動の両立の観点から業種別ガイドラインの合理的な見直しを促進するなど、平時への移行プロセスを進める動きが見られるところであり、今回いただいたご意見についても改めて内閣官房等に伝えてまいります。</p>	環境生活部 （県民くらしの安全課）

市町村名	意見交換内容	意見交換を希望する理由	県の取組	担当課
滝沢市	新型コロナワクチンの初回接種及び乳幼児接種に係る広域での対応について	<p>初回接種で利用できるワクチンは、従来型ワクチンであるが、現在、主に使用するワクチンはオミクロン株対応ワクチンであるため、初回接種の体制確保が難しい状況である。</p> <p>また、今後開始予定の乳幼児（6カ月～4歳）接種は、小児用（5歳～11歳）ワクチンと異なるワクチンを使用するため、小児科で複数のワクチンを取扱うことへの懸念がある。予約枠を明確に区分するとしても非効率である。さらに本誌知恵新型コロナワクチン接種を実施している小児科は1か所のみであり、小児への接種体制が絶対的に不足している。</p> <p>これらのことから、初回接種及び乳幼児接種については、ある程度まとまった人数での対応が効率的であると思われることから、県による広域的な接種体制の構築について検討をお願いしたい。</p>	<p>県内の1・2回目接種（初回接種）は、12歳以上の接種率が9割を超えており、昨年までのように日々多くの予約が入る状況ではないものの、新たに接種を希望する方が一定数おり、今後も継続したニーズが見込まれるところです。</p> <p>こうした状況を踏まえ、県では、1・2回目接種を希望する方が身近な地域で接種を受けることができるよう、従来株対応ワクチンの市町村間の融通調整に取り組んでいくほか、県の集団接種においては、今後も継続して1・2回目接種を実施していきます。</p> <p>また、6か月から4歳の乳幼児の接種については、他の定期予防接種との接種間隔を十分に確認し、保護者への丁寧な説明を行いながら進める必要があるため、普段から利用しているかかりつけ医や主治医での接種が基本と考えています。</p> <p>一方、小児科医が不足する地域では単独で接種体制を確保することが困難な市町村もあることから、県では、県医師会や関係医療機関等と連携し、住所地外での接種も可能とするなど広域的な接種体制の構築に向けた調整に取り組んでいきます。</p>	保健福祉部 （医療政策室）
西和賀町	県立病院と自治体病院との連携	<p>感染拡大期において、県立中部病院より感染の具体的な対策等について、当町町立病院スタッフに対しご指導や研修を実施していただいた。あらためて感謝申し上げますとともに、将来新たな感染症が発生した際にも、地域の基幹病院である県立病院から自治体病院へ支援していただける仕組みづくり（医師感染時の応援体制を含め）が対策として重要と考える。</p> <p>また、県立病院との連携体制に加え、自治体病院間の横連携も必要と考えることから、従来から行われている自治体病院開設者協議会（国保診療施設協議会）による情報共有等のほか、県からも連携構築についてご指導いただきたい。</p>	<p>県立病院では、保健福祉部と連携し、平時から各医療圏の感染管理ネットワークの中心として地域の感染対策に取り組んでいるほか、「いわて感染制御支援チーム（ICAT）」を中心とした「いわて医療福祉施設等クラスター制御タスクフォース」にも構成員として参加し、有事の際には感染管理強化の支援を行っています。また、クラスターが発生した施設への看護職員等の応援にも対応しているところです。</p> <p>市町村立病院等への医師の診療応援については、平時より県立病院のスケールメリットを活かし、主に同一圏域内で連携を図り、支援体制を確保しているところです。</p> <p>今後も保健福祉部等と連携し、支援体制の確保に努めていきます。</p>	医療局 （職員課、 医師支援推進室）